



東京アマデウス合唱団
第30回定期演奏会

歴代
トーマスカントルの
バッハ以外の名曲集

Tokyo Amadeus Chorus

日暮里サニーホール
2011年10月10日



ご挨拶

東日本大震災の被災者の皆様へ、謹んでお見舞い申し上げます。

本日はお忙しい中をご来場賜り、厚くお礼申し上げます。

今回は30周年記念として、「ライブツィヒ聖トーマス教会」の歴代トーマスカントルの中から、バッハ以外の6人の名曲を選び演奏することと致しました。

創立後30年を超え、また、水野先生から懇切な「発声法」のご指導を頂いてからでも10年を過ぎました。

水野先生の10年間のご努力に見合う程顕著とはいえませんが、この合唱団のレベルが少しずつでも向上している様な気配が感じられますことは、団員一同にとって、この上ない喜びであります。

また、この合唱団のためにご来場頂く皆様方からの継続した温かいご支援と励ましに支えられ、この演奏会を開催できることを大変嬉しく思っております。

今回は、当初予定し^た会場が変更となり、「日暮里サニーホール」で演奏する運びとなりました。

名曲のアンサンブルを楽しんで頂けたら幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲

PROFILE

指揮 水野 克彦



東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、
室内楽を細野孝興の各氏に師事。
オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。
藝大バッハカンタータクラブに在籍中、
小林道夫氏の薫陶を受ける。
日本オルガニスト協会会員。

チェロ 伊藤 恵以子



東京藝術大学卒業。同大学院博士課程修了。
チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、
倉田澄子の各氏に師事。
パリ・エコールノルマルで学ぶ。
第48回日本音楽コンクール入選。
Ensemble Delice のメンバー。

オルガン 堀江 和子(練習ピアニスト)



武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。
キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。
同研究科程修了。
ピアノを水本雄三、野村文子、
オルガンを高橋靖子の各氏に師事。
茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。
日本オルガン研究会会員。

PROGRAM

歴代トーマスカントルの バッハ以外の名曲集

Johann Gottfried Schicht (1753-1823) Thomaskantor von 1810-1823

ヨーハン・ゴットフリート・シヒト

- *Alles, was Odem hat, lobe den Herrn*
息をのめるすべてのものよ、主を誉め讃えよ
- *Veni Sancte Spiritus*
来たれ、聖霊よ
- *Laßt uns mit ehrfurchtvollem Dank*
うやうやしい感謝と共に
- *Kommt herzu, lasset uns dem Herrn frohlocken*
急ぎ来なさい、我らの主を讃美しよう

Johann Adam Hiller (1728-1804)

Thomaskantor von 1789-1801

ヨーハン・アダム・ヒラー

- *Alles Fleisch ist wie Gras*
すべての肉体は草のよう
- *Der Friede Gottes*
神の平安



休 憩



Johann Kuhnau (1660-1722)

Thomaskantor von 1701-1722

ヨーハン・クーナウ

- *Tristis est anima mea*
私の魂は悲しい

Tobias Michael (1592-1657)

Thomaskantor von 1631-1657

トビーアス・ミヒャエル

- *Unsre Trübsal, die zeitlich und leichte ist*
私たちの苦難、それは一時で軽いものであるが

- *Gott ist unsre Zuversicht und Stärke*
神は我らの確信にして強さ

Johann Hermann Schein (1586-1630)

Thomaskantor von 1616-1630

ヨーハン・ヘルマン・シャイン

Aus *Israelsbrunnlein* 1623

「イスラエルの泉 1623年」より

- *Wende dich, Herr, und sei mir gnädig*
御顔を向けてください、主よ、そして私をお恵みください

- *Zion spricht: Der Herr hat mich verlassen*
シオンは言う、「主は私を見放された」

Sethus Calvisius (1556-1615)

Thomaskantor von 1594-1615

ゼトゥス・カルヴィズィウス

Vier Weihnachtsmotetten

四つのクリスマス・モテット

Aus *Florilegium Portense* 1603

「プフォルタ学校詞華集 1603年」より

- *Vom Himmel hoch, da komm ich her*
高く天から私はここに来て

- *Freut euch und jubiliert*
喜べ、そして歓呼せよ

- *Gloria in excelsis Deo*
天では栄光が神に

- *Joseph, lieber Joseph mein*
ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ

解説にかえて

水野克彦

東京アマデウス合唱団の演目には毎回のことながら感心させられます。単に有名曲を並べただけのプログラムとは違って、興味深い主題性を伴う独自の選曲がなされており、ここ数年でも「5人のヨーハン」「メンデルスゾーンとハイドン」「ドイツ・バロックの精華」など、「どんなメッセージがこもっているのだろう」と想像を掻き立てられるような題目です。選曲者の創意工夫を讃えずにはおられません。そして今回の「歴代トーマス・カントルの名曲」という題にも、今までと比べて遜色のない面白さを感じます。

ところで「トーマス・カントル」は必ずしもよく知られた語でないかもしれません。

そこでドイツ語の辞書でカントル=Kantor を引いてみましょう。すると「聖歌隊指揮者」と出ています。そしてトーマスはドイツのライプツィヒにある「聖トーマス教会」のことです。したがってトーマス・カントルとは「聖トーマス教会聖歌隊指揮者」という意味になります。何となくイメージを持つことができたでしょうか。

次に、プログラムで採りあげられる作曲者がいつ頃の人であるかを調べてみます。すると16世紀の後半から19世紀の初めまで、約250年間にわたって活動していたカントルたちであると分かります。きょうの演奏会は、この間 聖トーマス教会カントルの職責を担ってきた音楽家たちの記録を辿るのです。こう考えてみれば随分と壮大なプログラムだなと驚きます。

歴代のトーマス・カントルで最も有名なのはヨーハン・ゼバスティアン・バッハですが、バッハは1685年生1750年没なので今から約250年前の人です。してみると、このプログラムで一番新しいカントルであるシヒトが一番古いカルヴィズィウスを思い出すときに、まるで現代の私たちが「バッハは遠い昔の人だなあ」と感慨にひたるのと同じような気持ちでいたのではないのでしょうか。

さて、きょうのプログラムを面白く味わうには、ライプツィヒ市や聖トーマス教会について何がしかの知識を得ておく方が良さそうです。

そこでこれらについて少しお話しておきましょう。

ライプツィヒ市はドイツの東端に位置するザクセン州の都市で、七世紀頃からスラヴ人がこの地に住みだしたのが始まりだそうです。ライプツィヒという名称はスラヴ語で「菩提樹の育つ場所=urbs Libzi」に由来します。当時はまだ単一国家としてのドイツは存在せず、封建領主の支配する領邦国家が寄り集まって神聖ローマ帝国を形づくり始めた時代でした。

そののち十五世紀になると、ライプツィヒは神聖ローマ帝国ザクセン公国の首都ドレーズデンに次ぐ大都市、見本市と出版業で有名な商業都市として繁栄します。

クラシック音楽を勉強する人の誰もが世話になる楽譜出版社ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社が1719年に、同じく有名なペータース社が1800年には創立されています。また芸術文化と学問の都市としても有名です。宗教改革ではルターがこの地で活躍しました。1409年に創立されたドイツ第二の歴史を誇るライプツィヒ大学は大哲学者にして数学者の

ライブニッツや文豪ゲーテを送り出しました。

1743年に音楽愛好家の商人たちが設立したオーケストラは、後に織物商人の見本市展示館ゲヴァントハウスを活動拠点とする「ゲヴァントハウス管弦楽団」となり、現在も世界で一流のオーケストラとして有名です。

十九世紀になるとメンデルスゾーンがゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者として活躍しつつ、ライブツヒ音楽院を設立して音楽教育に尽力しました。滝廉太郎も **明治時代** この音楽院に留学したのです。またシューマンは現在まで続いている音楽誌「新音楽時報=Die Neue Zeitschrift für Musik」をこの地で刊行しました。そして音楽の世界で最も偉大な人物ヨーハン・ゼバスティアン・バッハが1723年から1750年までトーマス・カントルでした。

バッハの名が出たので、そろそろ話題を聖トーマス教会へ移しましょう。私事ですが実は私も一度だけ聖トーマス教会を訪ねたことがあります。白い塔と白い壁が美しく、大きな建物にもかかわらず全体として釣り合いのとれた端正な眺めでした。教会堂内では柔らかく豊かに響く音が身体を包んでくれて、とても心地のよい音響空間でした。この教会堂は1150年頃に建てられたそうです。

そしてアウグスティノ修道参事会修道院の所有となった1212年に、付属のトーマス学校が設立されました。この学校は貧困層の少年のための寄宿学校だったので生徒たちは寝食と教育を保証されました。そのかわりに聖トーマス教会の礼拝で聖歌を歌って奉仕するという勤め

があったのです。トーマス・カントルはトーマス学校の生徒に音楽教育を施しつつ、礼拝音楽の準備と演奏の責任を負うのがその職務でした。そればかりでなくラテン語の授業も義務とされました。音楽家としてだけでなく教育家としても有能である必要があったのです。

バッハはトーマス・カントルに採用されるときにライプツィヒ市参事会から教育者としての適格性を問題にされました。大学を出ていなかったため、その能力があるかどうかを疑われたのです。少年時代に抜群な成績でラテン語学校を卒業しているにもかかわらずですよ！

学歴信仰は古今東西、変わらないのかもしれませんが。

閑話休題。

さて、トーマス・カントルは単に教会音楽の長としてだけではなく、ライプツィヒ市全体の音楽監督とも目されていました。当時はCDや放送などのなかった時代。一般市民にとっては教会の礼拝音楽がたぶんもっとも身近な音楽鑑賞の機会であったことと思います。

ライプツィヒの人口はバッハの時代で約三万人の大都市でした。そこに住む人々の音楽生活を支え導いていく役も担う、まさにトーマス・カントル職は大職責だったのです。

次にプログラムの曲目と訳詩、および作曲者を個々に紹介します。

なお、このプログラムは作曲者のカントル在職順を逆に遡っていくように組まれていて面白い趣向だと思います。

Johann Gottfried Schicht (1753–1823)

ヨーハン・ゴットフリート・シヒト

トーマス・カントル在職期間 1810–1823

ゲヴァントハウス管弦楽団の第2代カペルマイスター[宮廷楽長(ゲヴァントハウス管弦楽団では伝統的に首席指揮者を指す)]。

ライプツィヒ市で初のアマチュア合唱団ライプツィヒ・ズィング・アカデミーを設立。

作品の数は多く、コラール、モテット、カンタータやオラトリオ、また器楽作品がある。

バッハの作品を校訂してブライトコプフ・ウント・ヘルテル社から出版したのも大きな功績である。

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn

息のあるすべてのものよ、主を誉め讃えよ

(SATB)

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)

(Psalm 150, 6)

(旧約聖書 詩編 150 編 6 節)

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!

息のあるすべてのものよ、主を誉め讃えよ!

Halleluja!

ハレルヤ!

Veni Sancte Spiritus

来レ聖霊ヨ

(SATB)

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)

Veni Sancte Spiritus,

来レ聖霊ヨ、

reple tuorum corda fidelium

アナタノ信徒ノ心ヲ再ビ満タシテダサイ、

et tui amoris in eis ignem accende, veni!

アナタノ愛ノ炎ヲ彼ラノ心ニ増シテダサイ、来レ!

Qui per diversitatem linguarum

ソノ御方ハ、言語ノ違イヲ超エテ

cunctarum gentes

全テノ民ヲ

in unitate fidei congregasti.

信頼ノ一致へ結び合ワサレタ。

Halleluja!

ハレルヤ!

Laßt uns mit ehrfurchtvollem Dank

うやうやしい感謝とともに

(SATB)

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)

Laßt uns mit ehrfurchtvollem Dank

うやうやしい感謝とともに

den Gott der Lieb erhöhen,
mit feierlichem Lobgesang
des Heilands Fest begehen!
Preis sei dem Vater, der ihn gab.
Preis sei dem Sohn! Er kam herab
und ward das Heil der Menschen.

Doch mehr als euer Lobgesang,
preis ihn ein frommes Leben.
Dies ist sein Wille, dies der Dank,
durch den wir ihn erheben.
Wer liebevoll, wie Jesus Christ,
ein Helfer seiner Brüder ist,
der bringt ihm würdig Ehre.

Wer ihn mit treuem Herzen ehrt,
der darf sich seiner trösten.
Von ihm beglückt, von ihm belehrt,
lobsingt ihm, ihr Erlösten.
Es freut sich deine Christenheit,
Gott, deiner Menschenfreundlichkeit,
dir, dir sei ewig Ehre.

Kommt herzu, lasset uns dem Herrn frohlocken 急ぎ来なさい、我らの主を讃美しよう

(SATB)

(Psalm 95, 1-7)

Kommt herzu, lasset uns dem Herrn frohlocken,
und jauchzen dem Hort unsres Heils!
Lasset uns mit Danken vor sein Angesicht kommen
und mit Psalmen ihm jauchzen!
Denn der Herr ist ein großer Gott
und ein großer König über alle Götter.
Denn in seiner Hand ist, was die Erde bringet,

愛の神をほめ讃えさせてください、
厳かな讃歌で
救い主のお祭りを祝わせてください！
救い主を与えてくださった御父に讃美あれ。
御子に讃美あれ！御子は降臨なされ、
人々の救いとなられた。

しかし、あなたがたの讃美の歌よりも、
敬虔な生活によって神を讃えますように。
これが神の御意志であり、このことは感謝です、
私たちはその感謝をとおして神をほめ讃えます。
イエス・キリストのように、愛に満ちて
兄弟を助ける者は
神にふさわしく誉れをもたらします。

誠実な心で神を敬う者、
その者は神を信頼することを許されます。
神に喜ばれ、教えられて、
ほめ歌いなさい、お前たち救われた者よ。
あなたの信者は皆喜びます、
神様、あなたのおもいやりを。
あなたに永遠の栄光がありますように。

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)

(旧約聖書 詩編 95 編 1-7 節)

急ぎ来なさい、我らの主を讃美しよう、
我らの救いの拠り所に歓呼しよう！
感謝をもって主の御前に来よう、
讃美の歌とともに主に歓呼しよう！
なぜなら主は大いなる神、
全ての神々を超える大王であるから。
なぜなら地の生み出すものは主の御手の内にあり、

| | |
|---|------------------------|
| und die Höhen der Berge sind auch sein. | 山々の頂きも主のものであるから。 |
| Denn sein ist das Meer, und er hats gemacht, | なぜなら海も主のもの、主が海を造られ、 |
| und seine Hände haben das Trockne bereitet. | 主の御手は陸地を整えられたのだから。 |
| Kommt, lasset uns anbeten und knieen | 来なさい、我らは拝みひざまずこう、 |
| und niederfallen vor dem Herrn, | そして主の御前にひれ伏そう、 |
| der uns gemacht hat. | 我らをお造りになった主に。 |
| Denn er ist unser Gott, | なぜなら主は我らの神であり、 |
| und wir das Volk seiner Weide und Schafe seiner Hand. | 我らは主の牧場の民、御手の内の羊なのだから。 |
| Ehre sei Gott dem Vater und dem Sohne | 父なる神と子と |
| und dem Heiligen Geiste! | 聖霊に栄光あれ! |
| Wie es war im Anfang, jetzt und immerdar | 始めにあったように今もいつも |
| und von Ewigkeit zu Ewigkeit. Amen. | 永遠から永遠に。アーメン。 |

Johann Adam Hiller (1728 - 1804)

ヨーハン・アーダム・ヒラー

トーマス・カントル在職期間 1789 - 1801

ゲヴァントハウス管弦楽団の初代カペルマイスター。

声楽の教育にも力を注ぎ、声楽学校を設立したり教科書を著したりした。

ヒラーの頃になるとバッハまでの時代に比べて音楽の指向が大きく変わった。

合唱曲においても古い時代の複雑な対位法はもはや放棄されてドイツ語を主体としたコーラル風の簡素な4声体が好まれる。

今回取り上げるヒラーとシヒトの作品もそのような作風である。

「Alles Fleisch ist wie Gras」はヒラーの葬儀で歌われた。

Alles Fleisch ist wie Gras

(SATB)

(Jesaja 40, 6-8)

Alles Fleisch ist wie Gras,

und alle Herrlichkeit der Menschen

すべての肉体は草のよう

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)

(旧約聖書 イザヤ書 40 章 6-8 節)

すべての肉体は草のよう、

すべての人の栄華は

wie des Grases Blumen;
das Gras ist verdorret,
und die Blume abgefallen:
Aber des Herrn Wort bleibt in Ewigkeit.

草花のようだ。
草は枯れ、
花は落ちる。
しかし主の言葉は永遠に残る。

Choral

Ich sinke zu verwesen ein
und werde wieder Erde;
doch werd ich nicht auf ewig sein,
was ich im Grabe werde.
Im Schoße Gottes ruht mein Geist
von diesem Leben aus
und fließt von Wonn anbetend über.
Ach, mein Auge das sah nie,
meinem Ohr ertönte nie
solch Heil in diesem Leben.

Anbetung ihm!
Des Bundes Eid erfüllt er,
der sein Leben mit herzlicher Barmherzigkeit
hin in den Tod gegeben.
In jenem Tod auf Golgatha
bot er dir seine Gnade dar:
sein Haupt am Kreuz er neigte,
so erfüllt er seinen Eid,
er ist ganz Barmherzigkeit:
Dank sei ihm, Preis und Ehre!

コラール

私は死へとくずおれ、
そしてふたたび土に帰る。
しかし私はいつまでも
墓の中にはいないであろう。
私の霊は神の膝の内に休むのだ、
この生から離れて。
そして讚美しつつ至福の喜びに溢れる。
ああ、私の目は一度も見ず、
私の耳に一度も響かなかった、
そのような至福は、この生においては、

イエス・キリストに讚美を！
彼は契約の誓いを果たされる、
心からの慈愛とともに彼の命を
与えられた、その死によって。
ゴルゴタでのあの死によって
彼はその恵みをお前に差し出された。
彼は十字架上で頭を垂れ、
そのようにして誓いを果たされる、
彼はまったく慈愛である。
彼に感謝と讚美と栄光があるように！

Der Friede Gottes

(S A T B)
(Philipper 4, 7)

Der Friede Gottes,

神の平安

(ソプラノ、アルト、テノール、バス)
(新約聖書 フィリピの信徒への手紙 4章7節)

神の平安、

welcher höher ist denn alle Vernunft,
bewahre unsre Herzen und Sinne
in Christo Jesu zum ewigen Leben.
Amen.

それはあらゆる知性よりも高く、
我らの心と考えを守ってくださるであろう、
キリスト・イエスにおいて永遠の命を得るために。
アーメン。

Johann Kuhnau (1660–1722)

ヨーハン・クーナウ

トーマス・カントル在職期間 1701–1722

クーナウは鍵盤音楽の作品がよく知られている。なかでもチェンバロのための「聖書ソナタ=Biblischen Historien」が有名。

クーナウの後任カントルにバッハが選ばれた。「Tristis est anima mea」はシビトの遺品の競売によって運良く見いだされた。

Tristis est anima mea

(SSATB, Bc)

Tristis est anima mea

usque ad mortem;

sustinete hic et vigilate mecum.

(Matth. 26, 38)

Jam videbitis turbam,

quae circumdabit me,

vos fugam capietis.

Et ego vadam

immolari pro vobis.

私ノ魂ハ悲シイ

(2つのソプラノ、アルト、テノール、バス、通奏低音)

私ノ魂ハ悲シイ、

死ニ至ルホドニ。

ココニ留マツテ私共ニ目ヲ覚マシテオレ。

(新約聖書 マタイによる福音書 26 章 38 節)

間モナク、御前タチハ群衆ヲ見ルデアロウ、

群衆ハ私ヲ取り囲ムガ、

御前タチハ逃レノ道ヲ得ルデアロウ。

シカシ私ハ進モウ、

ソシテ御前タチノ為ニ供エ物トサレヨウ。

Tobias Michael (1592–1657)

トビーアス・ミヒヤエル

トーマス・カントル在職期間 1631–1657

「ドレーズデン=Dresden」の宮廷楽長であった父「ロギーア・ミヒヤエル=Rogier Michael」のもとで音楽を学び、更なる専門教育を「シュール・プフォルタ=Schulpforta(ザクセン選帝侯立学校)」で受けた。

そして「ゾンダースハウゼン=Sondershausen」という町の教会で楽長の地位を手に入れたのも束の間、教会が火事で焼けて職を失ってしまった。仕方なく数年間は宮廷官房官吏として働いた。

その後、有名なシャインの後任としてトーマス・カントルになった。折しも三十年戦争のさなかに遭って、トビーアスは宗教改革以来もっとも困難な日々を強いられたカントルとなった。

作品は若干の機会音楽を除いて、2部からなる宗教曲集「音楽による魂の愉悦=Musikalische Seelenlust」のみが伝わっている。「Gott ist unsre Zuversicht und Stärke」もその中の一曲である。

この曲は具象的な表現方法が使われていて、特に「Meer wüetet und wallet=大海原が荒れ狂い泡立つ」という箇所など印象的である。

Unsre Trübsal, die zeitlich und leichte ist

(SSATB)

(2 Korinther 4, 17–18)

Unsre Trübsal, die zeitlich und leichte ist,

schaffet eine ewige und über alle Maßen

wichtige Herrlichkeit uns,

die wir nicht sehen auf das Sichtbare,

sondern auf das Unsichtbare:

denn was sichtbar ist, das ist zeitlich:

was aber unsichtbar ist, das ist ewig.

私たちの苦難、それは一時で軽いものであるが

(2つのソプラノ、アルト、テノール、バス)

(新約聖書 コリントの信徒への手紙二 4章 17–18節)

私たちの苦難、それは一時で軽いものであるが、

永遠の、そして大いに

重みのある光栄を私たちに生み出す。

私たちはその光栄を、見えるものの上ではなく

見えないものの上に認める。

なぜなら、見えるものは儂いが

見えないものは永遠だからである。

Gott ist unsre Zuversicht und Stärke

(SSATB, Bc)

aus: Musikalische Seelenlust 1. Teil 1634 Nr. 24

神は我らの確信にして強さ

(2つのソプラノ、アルト、テノール、バス、通奏低音)

「音楽による魂の愉悦 1634年」より「第一巻 24番」

(Psalm 46)

(旧約聖書 詩編 46 編)

Gott ist unsre Zuversicht und Stärke,
eine Hilfe in den großen Nöten, die uns treffen haben.

神は我らの確信にして強さ、
大きな悩みに出会った我らの助け。

Darum fürchten wir uns nicht, wengleich die Welt unterginge

だから我らは恐れぬ、たとえこの世が没しようとも、

und die Berge mitten ins Meer sinken.

山々が大海原のまっただ中へ沈もうとも。

wengleich das Meer wütet und waltet

大海原が荒れ狂い泡立とうとも、

und von seinem Ungestüm die Berge einfielen.

山々が大海の猛威に崩れ落ちようとも。

Sela.

セラ(休止)。

Dennoch soll die Stadt Gottes fein lustig bleiben

なおも神の都は大いに朗らかである、

mit ihren Brunnlein,

その泉によって。

da die heiligen Wohnungen des Höchsten sind.

いと高きお方の聖なる住まいがあるので。

Gott ist bei ihr drinnen, darum wird sie wohl bleiben;

神と共にその内におられるので都は幸いであろう。

Gott hilft ihr früh.

神は早くも都を助けておられるのである。

Johann Hermann Schein (1586-1630)

ヨーハン・ヘルマン・シャイン

トーマス・カントル在職期間 1616-1630

シャインもまたロギーア・ミハエルに師事し、シュール・プフォルタで学んだ。

カルヴィズイウスの後任としてトーマス・カントルになった。

シャインは同時代人のシュッツ、シャイトとともにドイツ・ルター派教会音楽「三大 S」の一人として賞賛されている。

宗教モテット集「イスラエルの泉(1623年)」はモテット集「シオンのシンバル(1615年) = Cymbalum Sionium」「教会コンツェルト集作品 1(1618年と1627年) = Opella nova」とともに代表的な作品。

Aus Israelsbrunnlein 1623

「イスラエルの泉 1623年」より

Wende dich, Herr, und sei mir gnädig

御顔を向けてください、主よ、そして私をお恵みください

(SSATB, Bc)

(2つのソプラノ、アルト、テノール、バス、通奏低音)

(Psalm 25, 16-18)

(旧約聖書 詩編 25 編 16~18 節)

Wende dich, Herr, und sei mir gnädig;

御顔を向けてください、主よ、私をお恵みください。

denn ich bin einsam und elend.

Die Angst meines Herzens ist groß;

führe mich aus meinen Nöten.

Siehe an meinen Jammer und Elend,

und vergib mir alle meine Sünde.

なぜなら私は孤独で惨めだからです。

この心の不安は大いのです。

この苦悩から私を連れ出して下さい。

私の困窮と悲惨をご覧下さい、

そして私のすべての罪を赦して下さい。

Zion spricht: Der Herr hat mich verlassen

(S S A T B, Bc)

(Jesaja 49, 14-16)

Zion spricht: Der Herr hat mich verlassen,

der Herr hat mich vergessen.

Kann auch ein Weib ihres Kindeleins vergessen,

daß sie sich nicht erbarme über den Sohn ihres Leibes?

Und ob sie desselbigen vergesse,

so will ich doch dich nicht vergessen.

Siehe, in die Hände hab' ich dich gezeichnet.

シオンは言う「主は私を見放された」

(2つのソプラノ、アルト、テノール、バス、通奏低音)

(旧約聖書 イザヤ書 49 章 14~16 節)

シオンは言う「主は私を見放された」

「主は私をお忘れになった」と。

女が自分の赤ん坊を忘れるようなことがあるか、

自分の腹を痛めた息子を憐れまないということが？

たとえ女たちが息子を忘れようとも、

しかし神である私はお前を忘れぬ。

見よ、私はお前を両手に描きしるした。

Sethus Calvisius (1556 – 1615)

ゼトウス・カルヴィズィウス

トーマス・カントル在職期間 1594 – 1615

トーマス・カントルの地位を世に知らしめた大音楽家にして大知識人。

かの有名な天文学者ケプラーや大数学者ライプニッツに賞賛されるほどの学者であり、自然科学の教授として大学に招聘されたがトーマス合唱団の指導に専念するためにそれを断ったそうである。

また彼は音楽理論書を著し、当時のさまざまなモテットを蒐集して自らも作曲した。

それらのモテットは弟子であった「エアハルト・ボーデンシャッツ = Erhard Bodenschatz」が「プフォルタ学校詞華集 = Florilegium Portense」として出版した。

この曲集はバッハの時代まで 100 年以上にわたってトーマス教会で使われたのである。

シャイン、トビアス・ミヒャエル、クーナウからバッハへ至り、そしてさらに先へと続く、作曲家として著名なトーマス・カントルの系列はこうしてカルヴィズィウスから始まったのだった。

Vier Weihnachtsmotetten

aus „Florilegium Portense“ 1603

1. Vom Himmel hoch, da komm ich her

(SSATTB)

Vom Himmel hoch da komm ich her,

ich bring euch gute neue Mär:

der guten Mär bring ich so viel,

davon ich singen und sagen will.

2. Freut euch und jubiliert

(SSATTB)

Freut euch und jubiliert:

Zu Bethlehem gefunden wird

das herzeliebe Jesulein,

das soll eu'r Freud und Wonne sein.

3. Gloria in excelsis Deo

(SSATTB)

Gloria in excelsis Deo.

et in terra pax,

hominibus bona voluntas.

4. Joseph, lieber Joseph mein

(SSATTB)

Joseph, lieber Joseph mein,

hilf mir wiegen mein Kindelein.

Sause, liebes Kindelein.

Eja. Sunt impleta quae praedixit Gabriel.

Virgo Deum genuit, quod divina voluit clementia.

4つのクリスマス・モテット

「プフォルタ学校詞華集 1603年」より

1. 高く天から私はここに来て

(2つのソプラノ、アルト、2つのテノール、バス)

高く天から私はここに来て、

君たちに嬉しい、新しい便りを持ってくる。

私は嬉しい便りをとてもたくさん持ってきて、

それを歌い 伝えよう。

2. 喜べ、そして歓呼せよ

(2つのソプラノ、アルト、2つのテノール、バス)

喜べ、そして歓呼せよ。

ベツレヘムで見つかった、

愛しい小さなイエス様。

そのお方が君たちの喜び、至福となる定めである。

3. 天デハ栄光ガ神ニ

(2つのソプラノ、アルト、2つのテノール、バス)

天デハ栄光ガ神ニ。

ソシテ地デハ平和ガ、

ソシテ善イ意志ガ人々ニ。

4. ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ

(2つのソプラノ、アルト、2つのテノール、バス)

ヨーゼフ、愛する私のヨーゼフ、

私の赤ちゃんを揺するのを手伝ってちょうだい。

ビューン、ビューン、私の赤ちゃん。

サア、がぶりえるノ預言ハ成シ遂ゲラレタ。

処女ガ神ヲ産ンダ。神ノ処女ガ慈悲ヲ望ンダノダ。

演奏会の記録

| | 開催年月 | 主な演奏曲目 | 指揮 | 会場 |
|--------|---------|-----------------------------------|------|------------|
| 第1回 | 1981.02 | モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>) | 寺村博司 | 石橋メモリアル |
| 第2回 | 1981.11 | ヘンデル(メサイア) | 渡辺央己 | 中央会館 |
| 第3回 | 1982.11 | フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュッツ | 鈴木 優 | 東京カテドラル |
| 第4回 | 1983.09 | モーツァルト(戴冠式ミサ)、ヴィクトリア | 黒岩英臣 | 東京カテドラル |
| 第5回 | 1984.09 | モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>) | 黒岩英臣 | 東京カテドラル |
| 第6回 | 1985.10 | J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー | 宮本昭嘉 | 石橋メモリアル |
| 第7回 | 1986.10 | モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア | 鈴木 優 | 練馬文化センター |
| 第8回 | 1987.10 | シュッツ、ハスラー(ミサ・セクンダ) | 鈴木 優 | 石橋メモリアル |
| 第9回 | 1988.12 | モーツァルト(ヴェスペレ339)、J.ハイドン | 齋藤明生 | 駒場エミナース |
| 第10回 | 1989.11 | モーツァルト(レクイエム<パイヤー版>) | 齋藤明生 | 練馬文化センター |
| 春の小演奏会 | 1990.05 | ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー | 齋藤明生 | 石橋エオリアン |
| 第11回 | 1991.02 | モーツァルト(リタニア243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ) | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第12回 | 1991.11 | モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ) | 齋藤明生 | 川口リリアホール |
| 第13回 | 1992.11 | シャルパンティエ(真神のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第14回 | 1993.11 | モーツァルト(ミサ・プレヴィイス275)、アルブレヒツベルガー | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 15周年記念 | 1994.11 | モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)渋谷混声と合同 | 齋藤明生 | 新宿文化センター |
| 第15回 | 1995.10 | J.S.バッハ(カンタータ182)、ブクステフーデ | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第16回 | 1996.11 | モーツァルト(ヴェスペレ339)、アルブレヒツベルガー | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第17回 | 1997.10 | モーツァルト(ミサ・ソレムニス337、テデウム・ラウドムス) | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第18回 | 1998.10 | J.S.バッハ(カンタータ61・196)、D.スカルラッチェ | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 第19回 | 1999.10 | ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン | 齋藤明生 | 石橋メモリアル |
| 斎藤先生追悼 | 2000.07 | ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス | 水野克彦 | 同仁キリスト教会 |
| クリスマス | 2000.12 | 四つのアヴェマリア(アルブレヒツベルガー、ハスラー) | 水野克彦 | 旧上野演奏堂 |
| 第20回 | 2001.11 | モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン | 水野克彦 | 石橋メモリアル |
| 第21回 | 2002.10 | ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ) | 水野克彦 | 所沢文化センター |
| 第22回 | 2003.11 | ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー | 水野克彦 | ルーテル市谷センター |
| 第23回 | 2004.10 | D.スカルラッチェ、パレストリーナ、モンテヴェルディ | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第24回 | 2005.11 | シュッツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ) | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第25回 | 2006.11 | レヒナー(受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア) | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第26回 | 2007.10 | ブクステフーデ(カンタータ6曲) | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第27回 | 2008.11 | 5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚4人) | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第28回 | 2009.10 | メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア) | 水野克彦 | カトリック麻布教会 |
| 第29回 | 2010.11 | シュッツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンス | 水野克彦 | 同仁キリスト教会 |
| 第30回 | 2011.10 | 歴代「トーマス・カントル」のバッハ以外の名曲集 | 水野克彦 | 日暮里サニーホール |
| 第31回 | 2012.10 | ブクステフーデ(メンブラ・イエズ・ノストリ) | 水野克彦 | (未定) |

Thomaskantor

| | | | |
|-----------------------------|-----------|------------------------------|-----------|
| Thidericus | um 1295 | Tobias Michael | 1631-1657 |
| | | Sebastian Knüpfer | 1657-1676 |
| Johannes Steffani de Orba | 1436-1443 | Johann Schelle | 1677-1701 |
| Tohomas Ranstete | 1443-1444 | Johann Kuhnau | 1701-1722 |
| Peter Seehausen | um 1460 | Johann Sebastian Bach | 1723-1750 |
| Martin Klotzsch | um 1470 | Johann Gottlob Harrer | 1750-1755 |
| Johannes Fabri de Forchheym | um 1472 | Johann Friedrich Doles | 1756-1789 |
| Ludwig Götze | ab 1480 | Johann Adam Hiller | 1789-1801 |
| Gregor Weßnig | 1482-1488 | August Eberhard Müller | 1801-1810 |
| Heinrich Höfler | 1488-1490 | Johann Gottfried Schicht | 1810-1823 |
| Nikolaus Zölner | um 1494 | Christian Theodor Weinlig | 1823-1842 |
| Johannes Conradi | um 1508 | Moritz Hauptmann | 1842-1868 |
| Johann Schrnger | um 1513 | Emst Friedrich Richter | 1868-1879 |
| Georg Rhau | 1518-1520 | Wilhelm Rust | 1880-1892 |
| Johannes Galliculus | 1520-1525 | Gustav Schreck | 1893-1918 |
| Valerian Hüffeler | 1526-1530 | Karl Straube | 1918-1939 |
| Johann Hermann | 1531-1536 | Günther Ramin | 1939-1956 |
| Wolfgang Jünger | 1536-1539 | Kurt Thomas | 1957-1960 |
| Johannes Bruckner | 1539-1540 | Erhard Mauersberger | 1961-1972 |
| Ulrich Lange | 1540-1549 | Hans Joachim Rotzsch | 1972-1991 |
| Wolfgang Figulus | 1549-1551 | Georg Christoph Biller | seit 1992 |
| Melchior Heger | 1553-1564 | | |
| Valentin Otto | 1564-1594 | | |
| Sethus Calvisius | 1594-1615 | | |
| Johann Hermann Schein | 1615-1630 | | |



Sethus Calvisius
(1556-1615)



Johann Hermann Schein
(1586-1630)



Johann Kuhnau
(1660-1722)



Johann Sebastian Bach
(1685-1750)



Johann Adam Hiller
(1728-1804)



Johann Gottfried Schicht
(1753-1823)

東京アマデウス合唱団のご案内 (2011.10 現在)

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い隠れた名曲を歌ってみたい方をお誘いしております。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方が居られましたら、是非一度下記の練習会場にお出掛け頂き、見学だけでも大歓迎ですので練習状況等をご覧頂きたいと願っております。

下記ホームページをご参照の上、「護国寺」の同仁キリスト教会内の「美登里幼稚園」へお出掛けいただきたく、団員一同期待してお待ちしております。

(事務局 大久保ルミ子)

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

来年の演奏会「第31回定期演奏会」

「日時」 2012年10月8日(月・祝) — 予定

「会場」 未 定

演奏曲目 ブクステフーデの「Membra Jesu nostri」 BuxWV75
(私たちのキリストの四肢)

参加ご希望の方へ(下記へ電話等でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056

大久保ルミ子 03-3960-7714

練習日 毎週水曜日 午後6時半～9時

練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F

指導者 水野克彦

会費 月額 5千円(学生半額)

入会金 1千円

(練習場所への交通案内)右図参照

* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車 6番出口から徒歩5分

* JR 山手線「目白」駅よりバスで

「目白台3丁目」下車 徒歩3分

同仁キリスト教会案内図



東京アマデウス合唱団

- Sop1 辻村 順子、中西亜紀子
- Sop2 平石 幸枝、松木 香織
- Alt 伊藤 正子、大久保ルミ子、大友 美佐、
宮崎 米子、堀江 和子(兼オルガン伴奏)
- Ten1 小沢 仁
- Ten2 片岡 繁、水野克彦(兼指揮者)
- Bass 柿沼 椿、野口 碩、山村道男、水野克彦(兼指揮者)



第 29 回定期演奏会(2010. 11.3) 同仁キリスト教会礼拝堂

東京アマデウス合唱団のご案内 (2011.10 現在)

少人数に迫したルネサンス時代の音楽を積極的に取り入れて、他の合唱団ではあまり歌うことの少ない選りたる曲を歌ってみたい方をお探ししております。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のパロッドのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方が居られましたら、是非本会にお出掛け頂き、お話し合いをさせて頂きたいと思っております。

下記ホームページを御覧いただき、団員一同期待しております。



聖トーマス教会

SINCE 1980

Tokyo Amadeus Chorus